

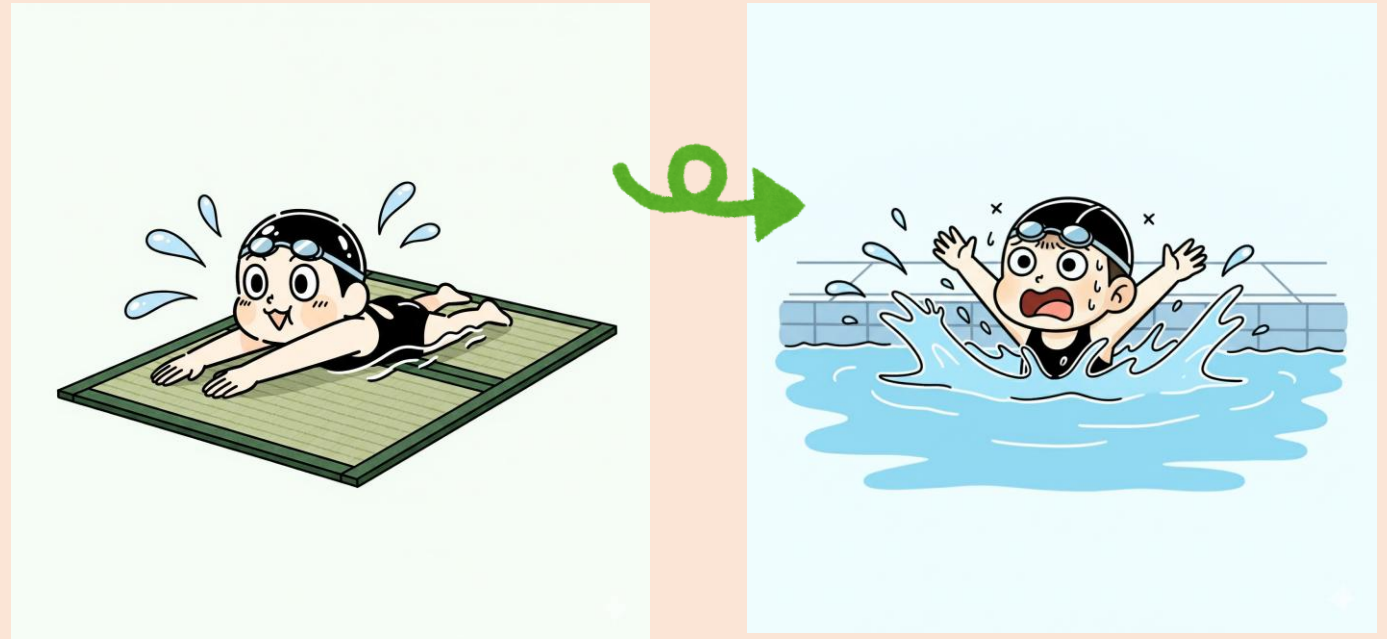
日本語教育現場と養成課程の乖離を解消するには？

日本語教師と日本語教育分野の持続可能な成長・発展を目指して

北出慶子（立命館大学）

嶋津百代（関西大学）

杉本香（大阪大谷大学）



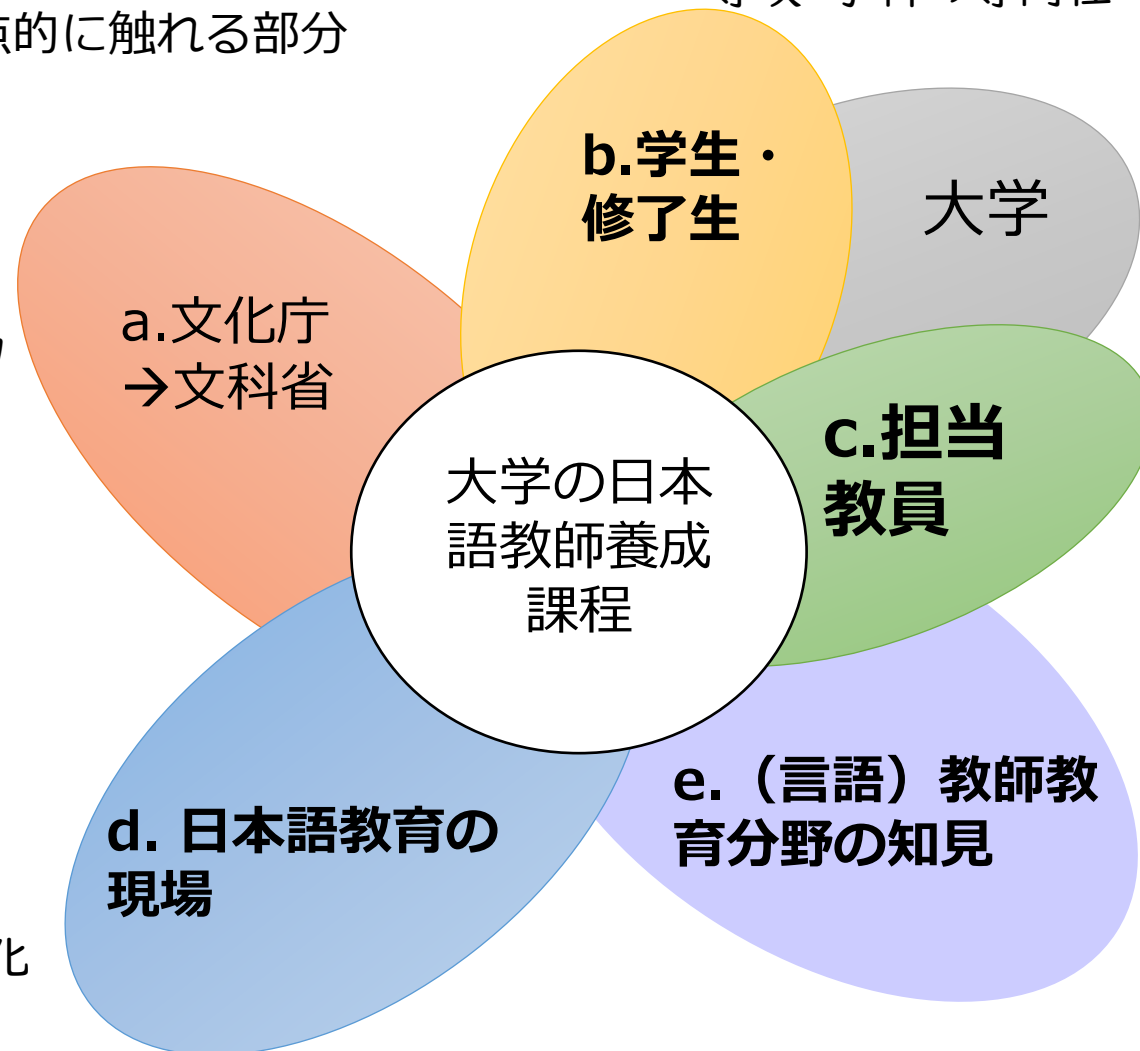
「畳の上の水練」 Gemini作成

大学日本語教員養成プログラムの コンテキストとステークホルダー

太字部分：今回の報告で重点的に触れる部分

- ・必須49項目
- ・実習の必修化と基準
- ・養成に求められる資質・能力
- ・登録日本語教員制度
- ・日本語教育の参照枠
- ・日本語学習「支援者」

- ・日本語教育の参照枠
- ・認定日本語教育機関
- ・学習者の多様化と個別最適化
- ・ICTの活用
- ・若手不足？



- ・ニーズ・レディネス
- ・21世紀型コンピテンシー
- ・学士力・社会人基礎力
- ・専攻・学科の専門性

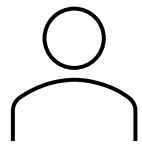
- ・登録日本語教員養成機関、
登録実践研修機関
- ・コアカリキュラム
- ・ディプロマ・ポリシー
- ・教育のDX化
- ・産学・官学連携
- ・少子化

- ・教育観・学習観
- ・目指す人財像
- ・教師教育者としての専門性
- ・担当体制

- ・21世紀型教師
- ・構成主義的学習観・教育観
- ・知識→現場主導型の学びへ
- ・専門職としての教師の資本
- ・拡張するティーチング

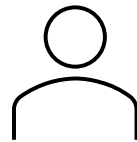
本報告の趣旨

1. 大学での養成課程と教育現場との乖離はあるのか。
2. どんな乖離があるのか。なぜ、乖離が生じているのか。
3. 乖離を軽減するために何ができるか。



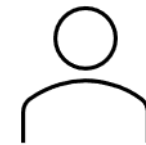
①北出

大学での日本語教師
養成担当教員と受講
生への調査結果から



②嶋津

養成課程修了生
への調査から

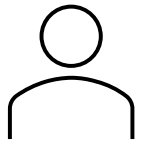


③杉本

実習担当の日本語学校への
調査、実習生への調査、
「連携のための日本語教育
実習研究会」実践から

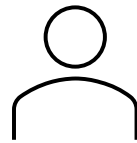
本報告の趣旨

1. 大学での養成課程と教育現場との乖離はあるのか。
2. どんな乖離があるのか。なぜ、乖離が生じているのか。
3. 乖離を軽減するために何ができるか。



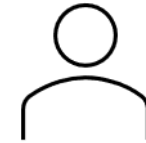
①北出

大学での日本語教師養成担当教員と受講生への調査結果から



②嶋津

養成課程修了生への調査から



③杉本

実習担当の日本語学校への調査、実習生への調査、「連携のための日本語教育実習研究会」実践から

1. 養成課程と日本語教育現場との乖離はあるのか。

- 大学での養成課程担当者への調査結果から

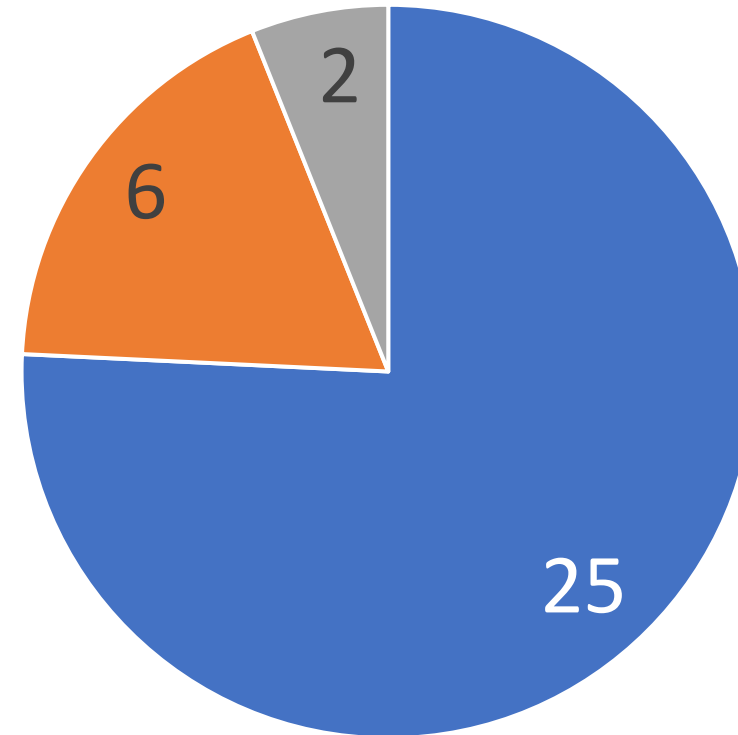
大学での日本語教師養成課程を担当する教員を対象とした質問紙調査 概要

1. **目的**：大学での日本語教師養成課程における現状と課題を探り、改善策を見出す
2. **期間**：**2022年** 9月9日（金）～**2022年** 9月30日（金）
3. **形式**：オンラインによる質問紙調査（匿名） google forms
4. **構成**：記述式26問と選択式12問、4つの領域：プログラム、実習、学習支援、キャリア
5. **対象・回答者**：大学で日本語教師養成課程のプログラムのコーディネータやプログラムの調整に携わっておられる方（各教育機関から1名）、計33名
6. **分析方法**：記述式回答分は、帰納的コーディング（佐藤, 2008）

回答者概要 (n=33)

- 各教育機関から1名
- 全員4年制大学

a. 日本語教師養成の単位数 (26単位/45単位)

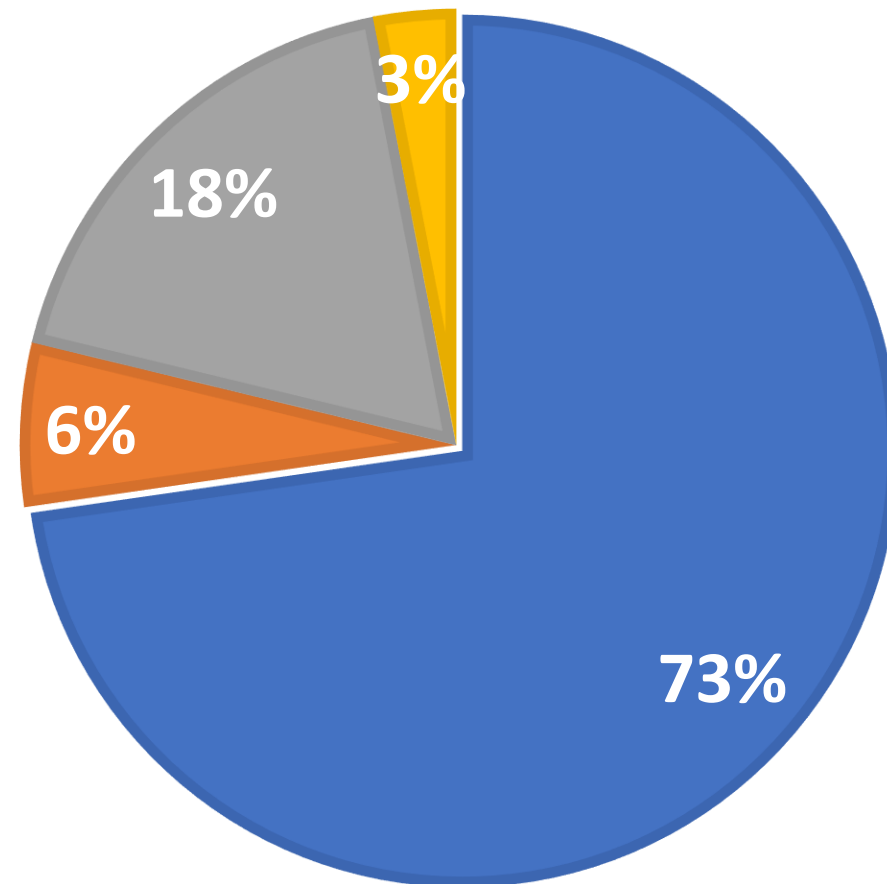


■ 26単位 ■ 45単位 ■ 両方混在

養成課程と教育現場との乖離はあるのか

■ 乖離がある ■ 乖離はない
■ 現場による or わからない ■ 無回答

大学の養成課程担当教員への質問
Q: 「I-(5)日本語教育の現場と日本語教師養成課程の乖離はあると考えますか。」



(n=33)

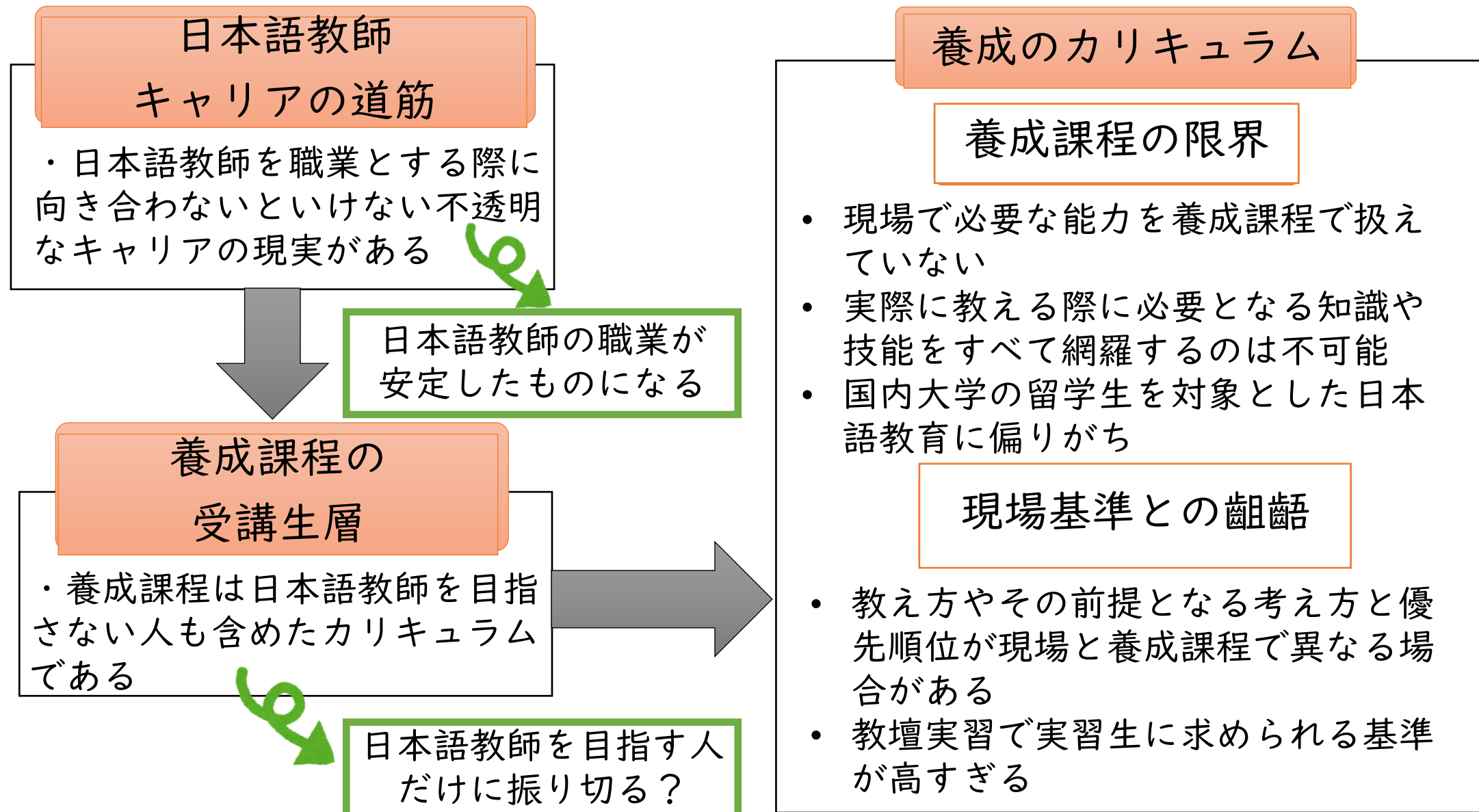
2. どのような乖離があるのか。 なぜ、乖離が生じているのか。

2.1 大学における日本語教師養成の位置づけとカリキュラム

2.2 日本語教師という職業的特徴

2-1大学における日本語教師養成の位置づけ

Q: 乖離が「ある」と考える場合、それはどのような点ですか。

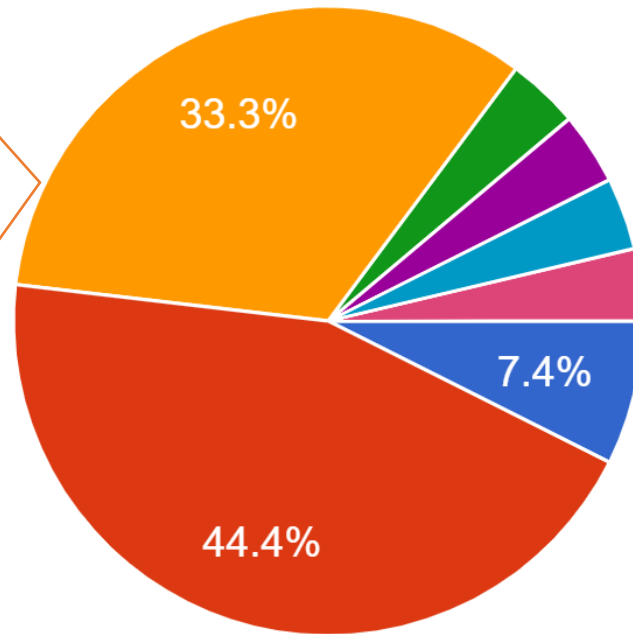


2.1 大学における日本語教師養成のカリキュラム

Q:大学での日本語教師養成課程では、日本語教師育成においてどの程度まで**到達しておくべき**、または**準備しておくべき**だと思いますか。以下の達成基準から1つ選んでください。

*トライアル調査後に追加した設問のためn=27

- 日本語教師の職業が安定しておらず、ならない人も含めたカリキュラムだから
- 教えるスキルは現場で身に付けられるが、前提となる教育観は大学で醸成する必要があるから



- 現場での即戦力になるレベル
- ⇒ ● 現場で研修を受ければ働くことができるレベル
- ⇒ ● 日本語教師としての素養を身につけるレベル
- 即戦力とまではいかないかもしれないけれど現場に揉まれても何とかやってい...
- 主専攻か副専攻かによると思う
- 本学の「日本語教員養成課程45単位...
- 「現場での即戦力になるレベル：学生...

- 副専攻（26単位）だから
- 一般企業と同じで現場でOJTを受けて業務に入れるレベル
- 多様な現場に就くので全ての現場に合わせた即戦力までは無理

大学で日本語教員養成課程を受講開始時と修了時の学生への 質問紙調査 概要

*2025年度も調査継続中です。調査にご協力いただける方はご連絡ください。

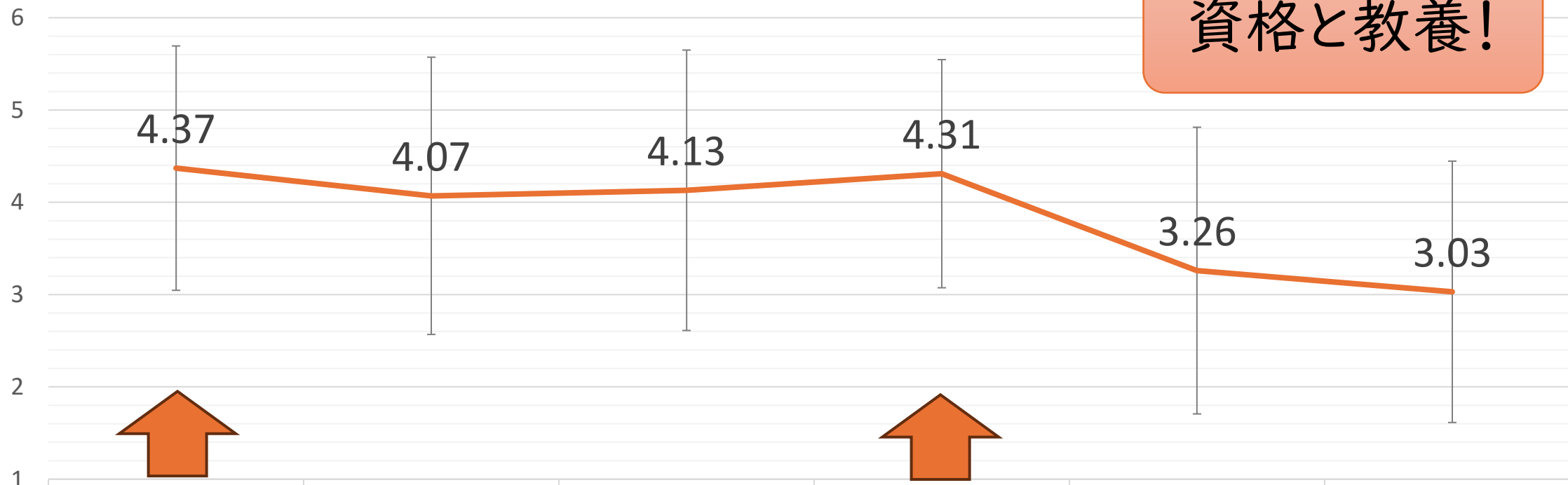
1. 目的：養成課程受講開始時のニーズ・レディネスの把握
2. 期間：2023年4月（春学期）、2023年9～10月（秋学期）
3. 形式：google formsで選択式回答、匿名
4. 構成：選択式設問:6件、6件法尺度式設問:4件
5. 対象・回答者：日本語教員養成課程を受講し始めた学生
167名（9大学）、26単位/45単位
6. 分析方法：基本統計（M, SD）、今後の予定：クロス集計
（ノンパラメトリック検定）、因子分析

Q:日本語教員養成課程を受講する目的は何ですか。
(受講開始時学生の回答 6段階尺度)

受講生への調査 n=167 (9大学)
科研チーム(清水裕子)
2023年春・秋

日本語教員養成課程の受講目的

資格と教養!



— 系列2

4.37

4.07

4.13

4.31

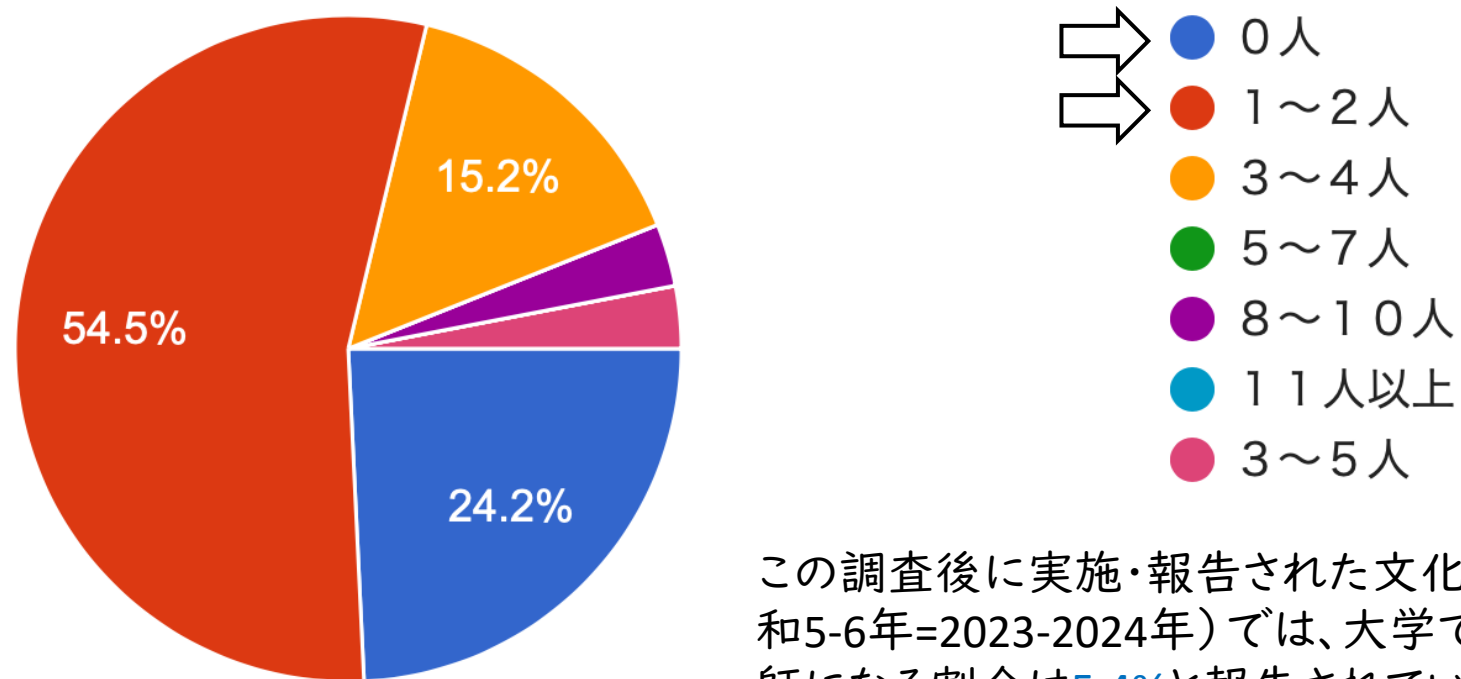
3.26

3.03₁₃

大学の養成を修了し、新卒で日本語教師になる人数

(5)毎年、平均何名が新卒でのキャリアとして日本語教師を選んでいますか。

33 件の回答

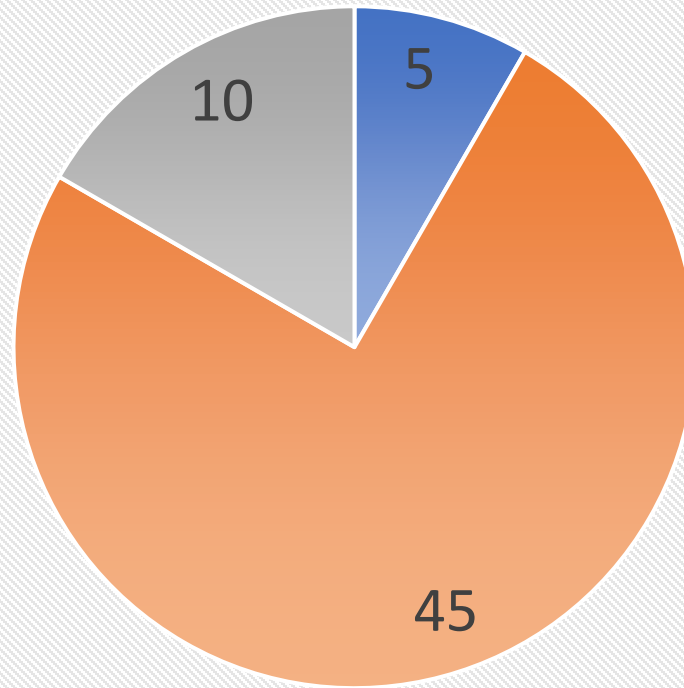


この調査後に実施・報告された文化庁委託事業による調査（令和5-6年=2023-2024年）では、大学での養成修了者で日本語教師になる割合は5.4%と報告されている。

文化庁（2024）『令和5年度 大学等日本語教師養成課程及び文化庁届出受理日本語教師養成研修機関実態調査報告書』文化庁国語課

養成課程修了時の到達レベル(修了学生の回答)

Q: 卒業後、職業として日本語を教えるとしたら、
どの程度準備ができていると思いますか。



- a. 現場ですぐに教えることができそう
- b. 現場で研修やメンター(補助教員)などの補助があれば、教えることができそう
- c. 自信がないので、教えられない

2.2 日本語教師という職業的特徴 (①)

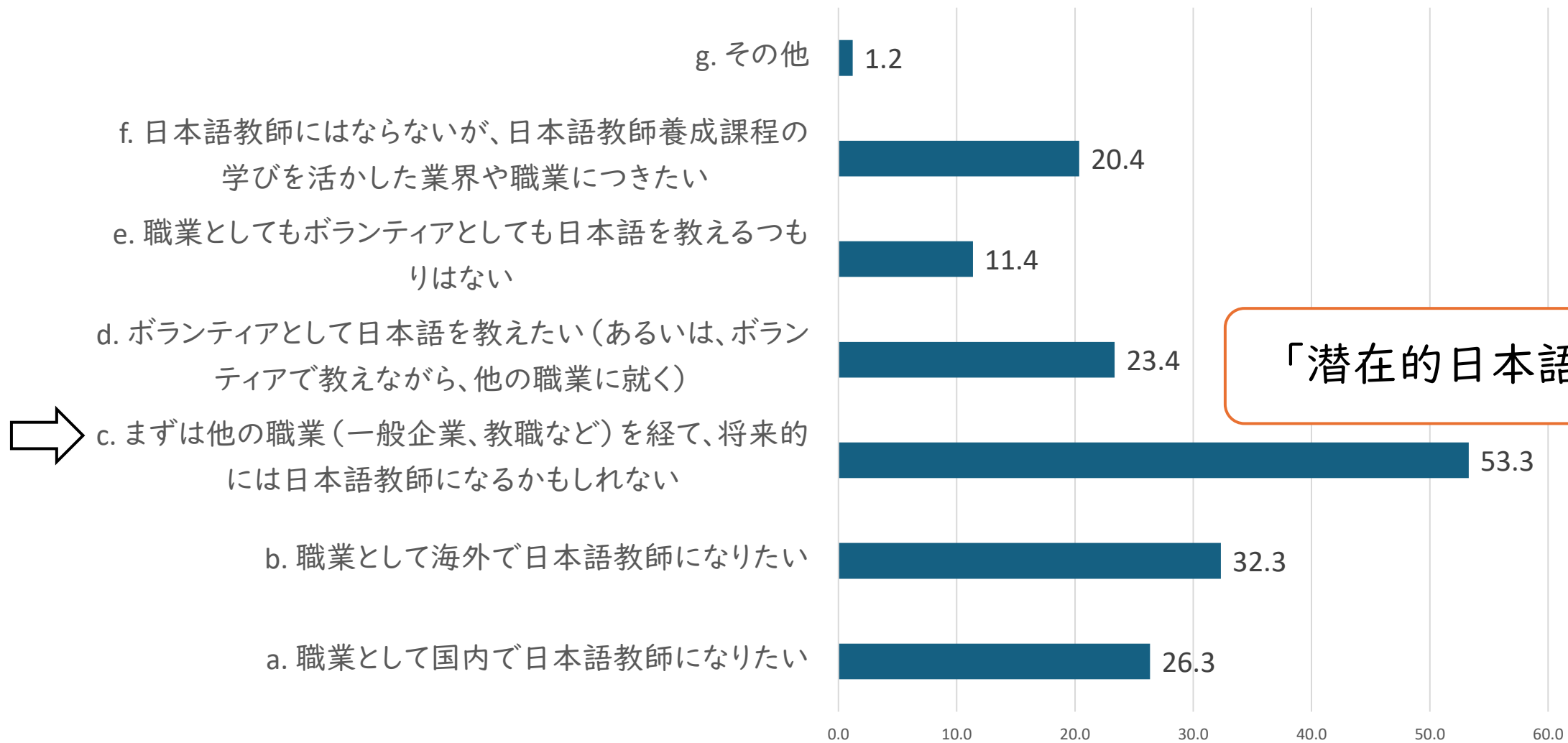
Q:貴学の学生／日本語教師養成課程の履修生が日本語教師のキャリアに進む上で、現在何か障害があると思いますか。あると思う場合は、どのような問題か、書いてください。

	焦点的コード	オープンコード
①	日本語教師の待遇の悪さや不安定さ	・ 待遇面の不安定さ ・ 給与面の不安定さ
	日本語教師の社会的地位の低さや偏見	・ 仕事のイメージの悪さ ・ 社会的身分の低さ ・ 国家資格・公教育での教員免許がないこと
	日本語教師としての就職の機会の少なさ	・ 教師求人の少なさ ・ 専任・常勤ポジションの少なさ ・ 新卒での専任就職の難しさ ・ 社会状況に左右されやすい職種
②	就職前に経験を得る機会の少なさ	・ 実習時間の少なさ ・ 研修の少なさ
	国際・社会情勢への不安	・ 海外渡航の危険性や不安 ・ 地元志向・国内志向

受講開始時の学生が考える卒業後のキャリア

n=167 (9大学)
科研チーム(清水裕子)
2023年春・秋調査結果

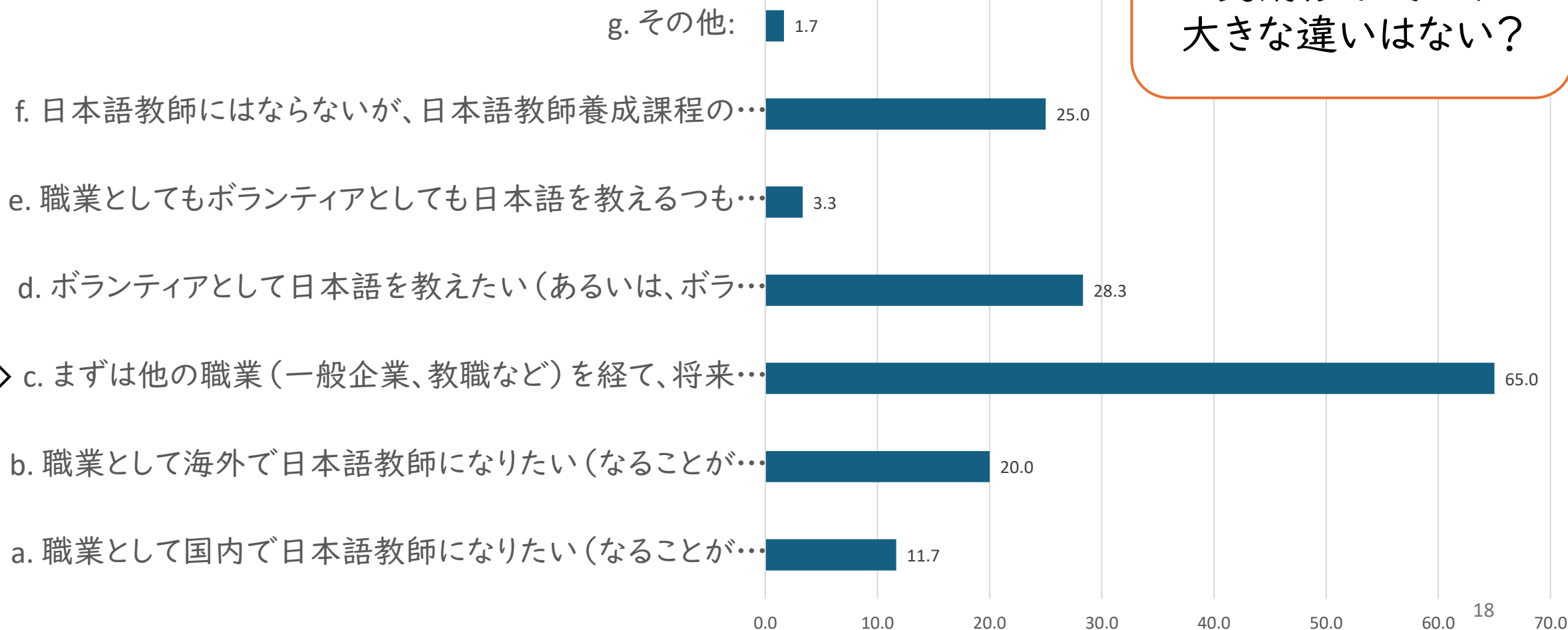
複数回答可(選択者の割合%)



受講修了時の学生が考える卒業後のキャリア

グラフ タイトル

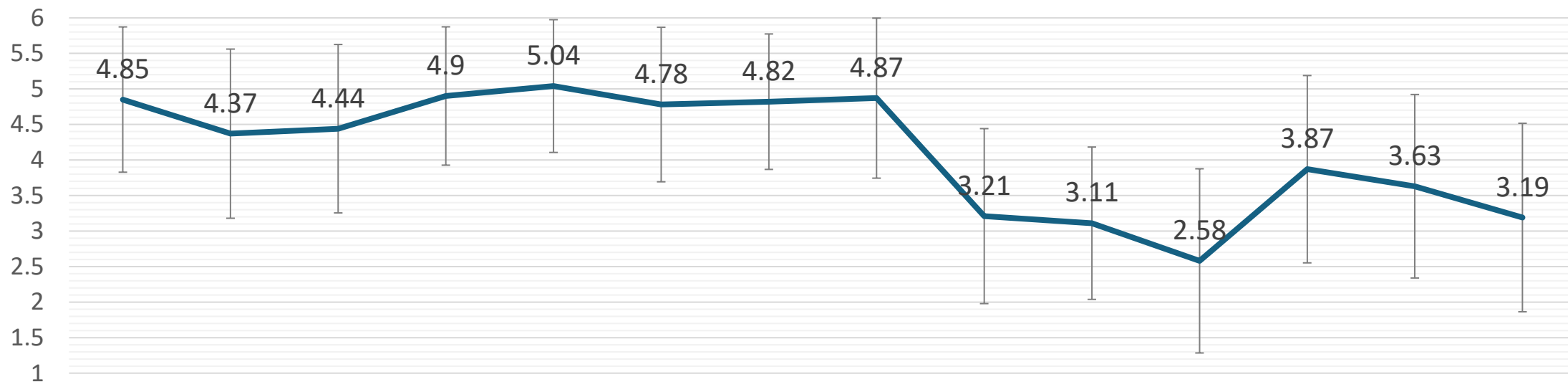
受講開始時と
受講修了時で、
大きな違いはない？



養成課程の受講開始学生による 日本語教師の職業イメージ

n=167 (9大学)
科研チーム(清水裕子)
2023年春・秋調査結果

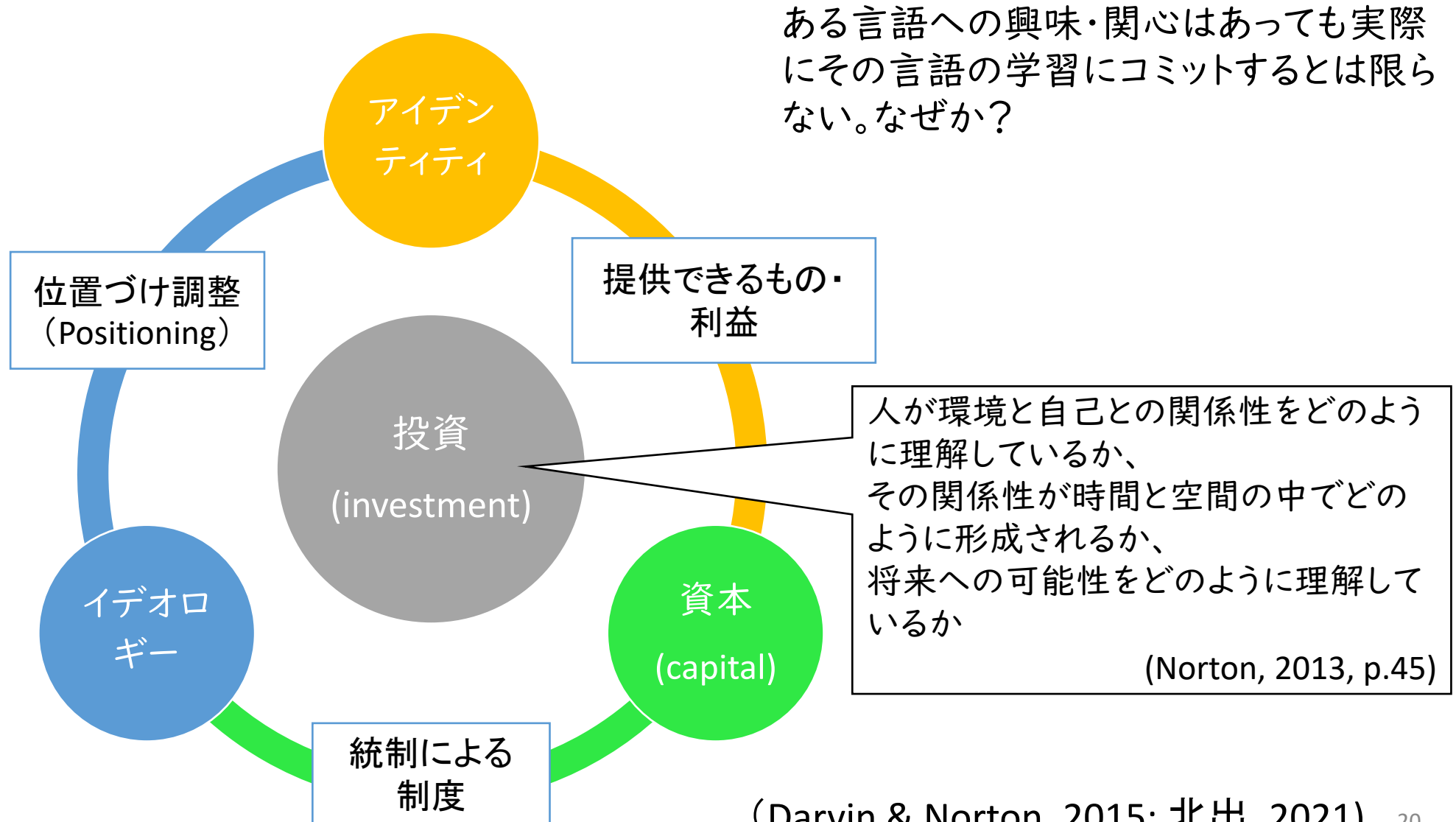
平均値と標準偏差



多様な背景の人と交流できる
誰かの夢をかなえる
自分の能力を活かせる
やりがいがある
人の役に立つ
専門性が高い
社会に貢献
海外で活躍
待遇がいい
社会的地位が高い
業務が楽
一生続けられる
ボランティアで
定年後にするもの

↑ ↑ ↑ ↑ ↑

言語学習者・教師の投資モデル



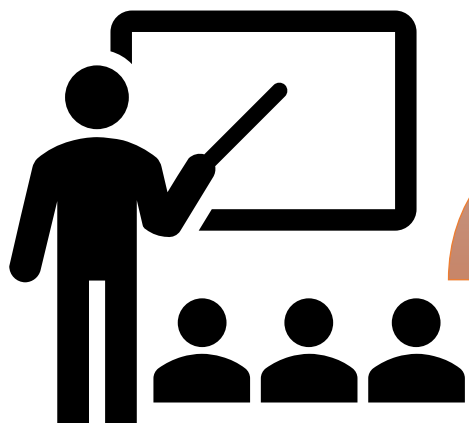
3. 乖離を軽減するために何ができるか。

3.1 養成課程での教師教育の再考

3.2 日本語教師の専門職としての資本力の向上

養成課程で学ぶ理論と現場の乖離？

一般的理論・技術



現場で知の適用

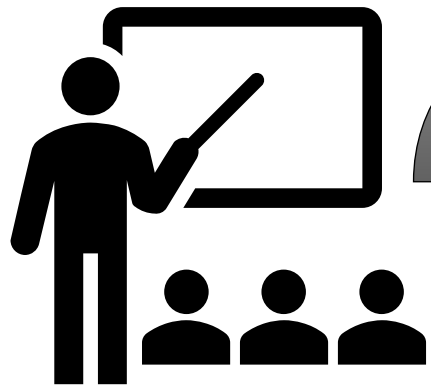


実際は、理論と現場の乖離
でうまく適応できない場合
もある。
「リアリティ・ショック」

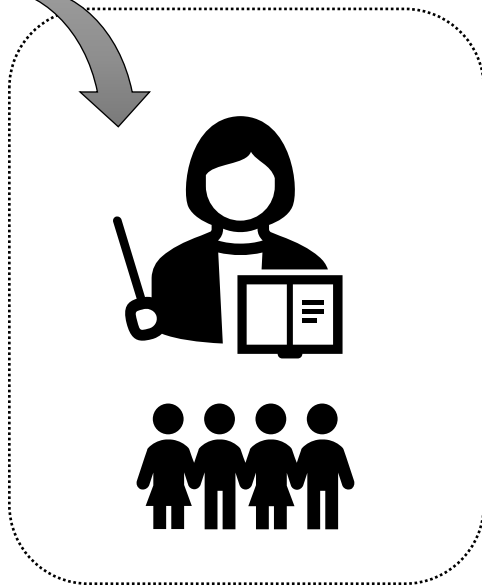


現場で溺れない教師の育成 に向けて

一般的理論・技術



現場で知の適用

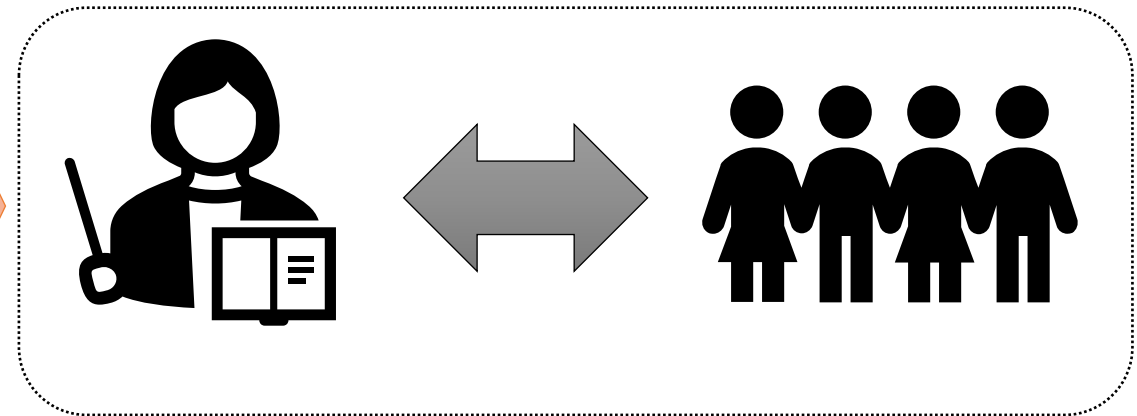


知識転移型モデル

理論と実践の関係（佐藤学, 1998）

- ・「理論の実践化」: 学問知
- ・「実践の典型化としての理論」: ベテラン教師の方略
- ・「**実践の中の理論**」: 個々の現場文脈で生まれる知

現場で実践を理論化

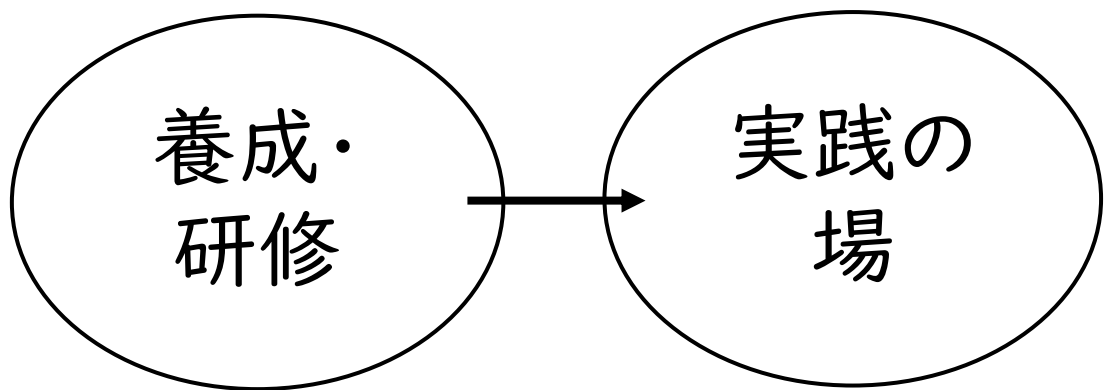


理論：実践の内側で常に機能しているもの

現場・実践の中で知を構築するモデル
リアリスティック・アプローチ
（コルトハーヘン, 2012）

例) 越境的学習 (香川・青山, 2015, p.53)

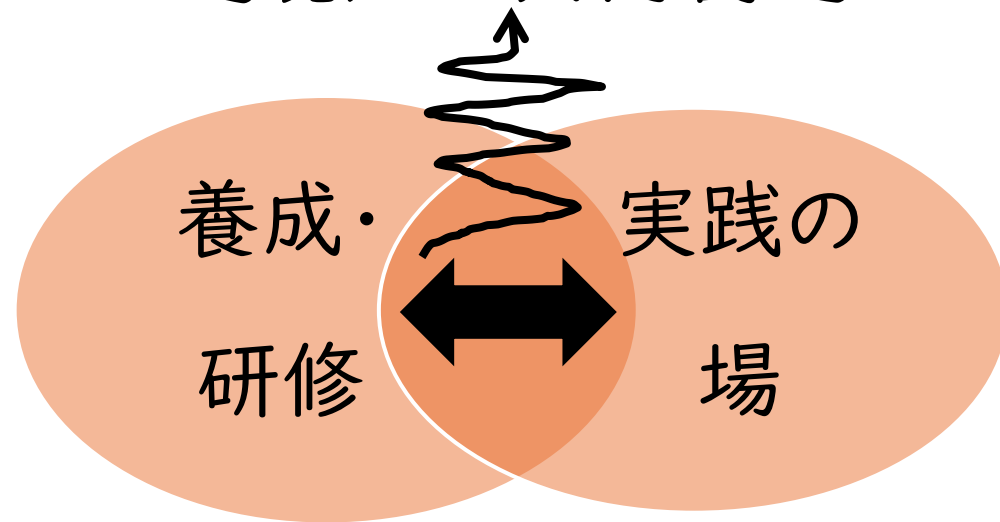
知の直線的な適用



個体主義的
転移モデル

研修は、実践に向けての訓練の場

越境知の共同創造



関係論的
越境モデル

学び=喜び

研修と現場を結び、双方が齟齬を越えて
新しい知・関係を創造していく

専門職としての（日本語）教師の資本

Hargeaves & Fullan (2012)
木村他 (2022, p.223)



世代継承性、同僚性、
ピア・ラーニングコミュニティ、
専門職ネットワーク

信頼と協働
共通の使命感とそれに基づく関係性

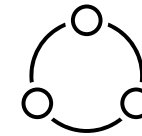
- ・ 教師同士
- ・ 行政と教師の連携

社会関係
資本

- ・ 組織としての責任
- ・ 相互扶助

蓄積

循環



専門職の資本

人的
資本

- ・ 知識
- ・ スキル
- ・ 心構え
- ・ 資格
- ・ 情動知
- ・ ウェルビーイング

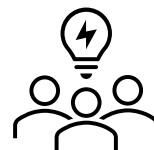
文化庁の基準

意思決定
資本

- ・ 自由裁量の判断
を実行する力
- ・ 事例経験
- ・ 挑戦と伸長
- ・ 省察

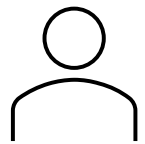
マニュアル教師で
はなく、自分たちで
判断し、実行する力

共有



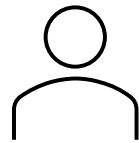
本報告の趣旨

1. 大学での養成課程と教育現場との乖離はあるのか。
2. どんな乖離があるのか。なぜ、乖離が生じているのか。
3. 乖離を軽減するために何ができるか。



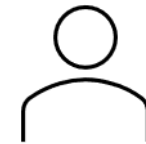
①北出

大学での日本語教師
養成担当教員と受講
生への調査結果から



②嶋津

養成課程修了生
への調査から



③杉本

実習担当の日本語学校への
調査、実習生への調査、「連
携のための日本語教育実習
研究会」実践から

キャリアに着目した研究から 養成課程と教育現場との乖離について考える

研究の背景

日本語教師のキャリアに関する研究では、キャリア選択に影響を与える要因の検討（佐藤・片野・高木，2022）やキャリア形成過程の理論的・実践的考察（舘岡，2023）が行われてきた。しかしながら、日本語教師として就職した後に、キャリアを持続的なものに行っている人々がどのようにキャリアを意味づけているかについては、十分に検討されてこなかった。

キャリアに着目した研究から 養成課程と教育現場との乖離について考える

研究の目的

初任日本語教師に対するインタビュー、グループディスカッションの調査を行い、「学習者とわたしの関係性」に関するビジュアル・ナラティブと、各自の絵を介した共同的な語りを分析し、日本語教師のキャリア観を考察する。

ビジュアル・ナラティブ(やまだ, 2017; 2018)とは？

A) ビジュアルによる語り

B) ビジュアルを介した語り

- A) ビジュアルそれ自体がテキストの一種であり、鑑賞者が描かれたものをむすびつけストーリーを構築できる(意味の生成主体となる)
- B) ビジュアルを介して、三項関係での語りが生み出される(語りやすさ、対象化のしやすさ)



那智参詣曼荼羅図(熊野那智大社蔵)

Wikipedia commonsより

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kumano_Nachi_Mandala.jpg

協力者の初任日本語教師

	卒業年	日本語教師歴	専任/非常勤
A	2021年3月	1年4か月	専任講師
B	2022年3月	4か月	専任講師
C	2022年3月	1年5か月	非常勤講師
D	2022年3月	6か月	専任講師
E	2022年3月	3か月	専任講師
F	2021年3月	11か月	専任講師
G	2022年3月	6か月	非常勤講師
H	2022年3月	6か月	～9月非常勤/10月～専任
I	2022年3月	6か月	専任講師

研究の方法

個別インタビュー

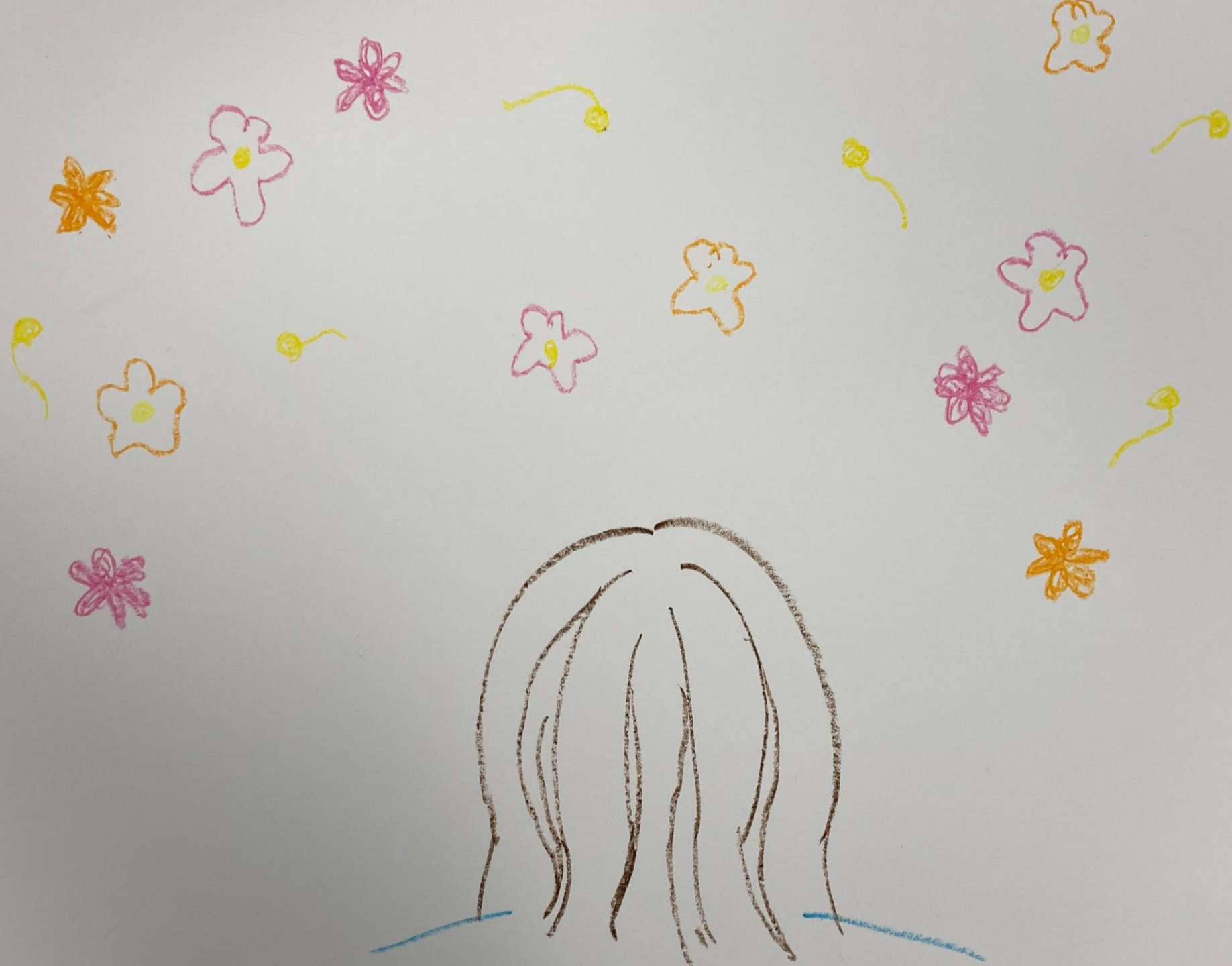
初任日本語教師9名
なつこ(2022年11月)

ビジュアルナラティブ

(2022年11月)
「学習者とわたしの関係性」を描く

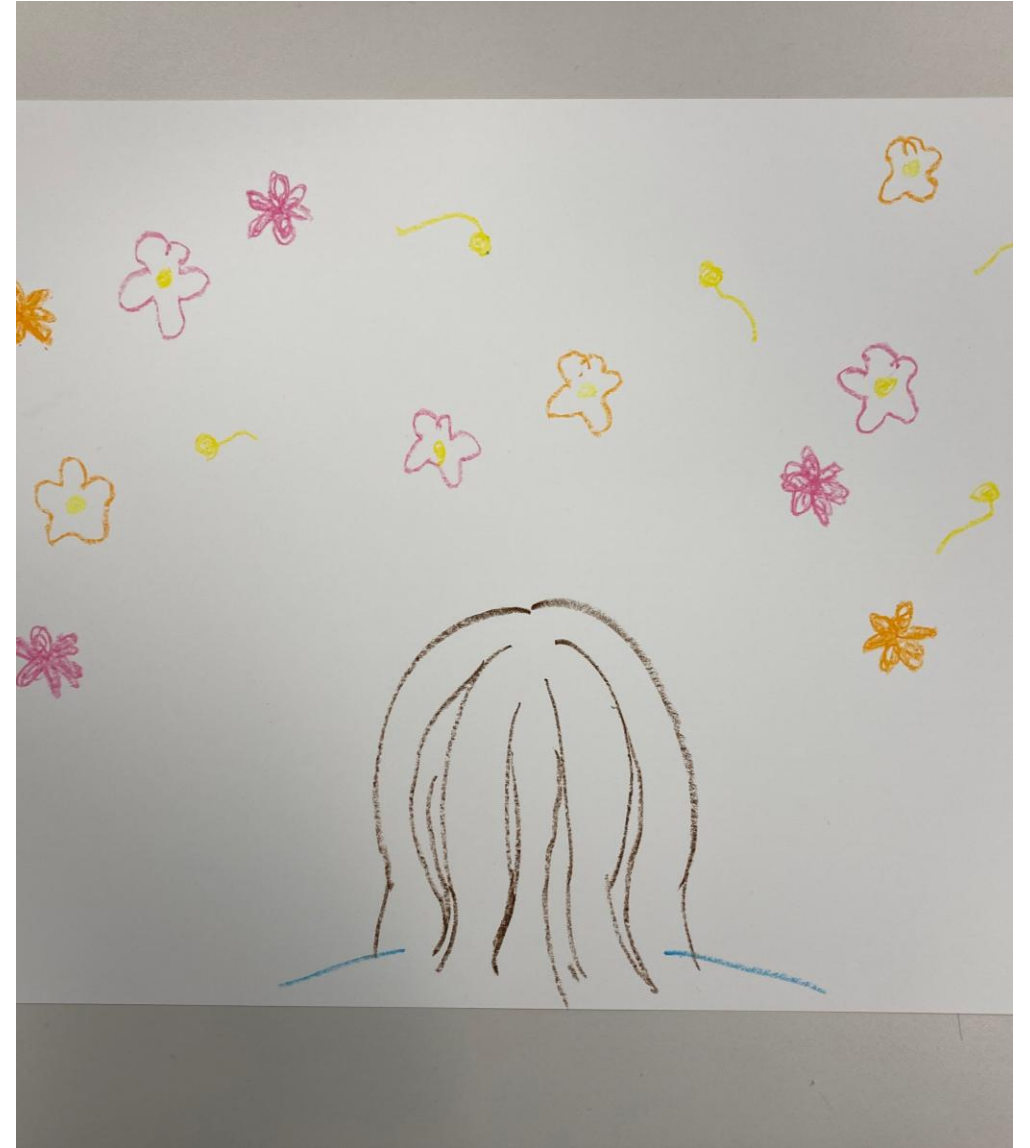
ギャラリーウォーク(2023年6月)
他の研究協力者の絵を見て感じたことを書き残す

グループディスカッション(2023年6月)
協力者5名が、それぞれの絵について語り合う



個別インタビュー なつこ

これが私です。これが私で、教室がこうあって、こっちに学生がみんな座ってるんですけど、私はこの人たちに会ったら自分も癒やされるし。多分、初級の学生を教えてて、日本に来たばかりなんです。みんな何かやる気があって、生き生きしてるし、かわいく見えて、みんな。多分同じぐらいの年代の人も多くて。みんなフレッシュでやる気に満ちあふれてる感じもするし、すごい仲良くしてくださるんです。だから私から見たら癒やされる存在みたいな感じのがあって、かわいらしい感じにしてみました。



個別インタビュー なつこ

インタビュアー：癒やされるんや。

なつこ：

はい、そうなんです。仕事、結構、業務の仕事、結構たくさんあって、午前が授業なら午後は業務ずっとするっていう感じなんですけど、**本当に業務のほうが疲れるんで、授業でみんなに会えたら、すごい私もううれしいんです。それでこんな感じに。**

ビジュアルナラティブ：絵についての語り なつこ

- 私がこの絵を描いたのは、学生を花に例えています。私は、これは今授業中なんですけど、授業の他にも色々やることあって業務が忙しくてそちらの方がちょっと大変だなと思っているので、授業の時間が私にとってはとても楽しいんです。なので、学生たちは私にとっての癒しであるということを花で表現しています。あとはちょっと私の絵があまり上手じゃないので、抽象的な感じになってしまっているんですけど、ここが私でみんなを見ている感じです。(略) あ、ここに書いてある質問もそうです。この花は全部学生を表していて、大変な時もあるんですけど、それよりも業務の方が大変だから、癒しというのを表したいです。

グループディスカッション：お気に入りの絵 ひかる

- 私お気に入りの作品は、なつこさんが書かれた、あれがちょっとお気に入り、理由ってというのが「授業が癒やして」ってことばを聞いて、ああいいなと思って私ももともと授業がしたくて日本語教師になったんですけど、授業していくうちに、もっと自分足りてないなとか、学生にもっとできることはなんやろうとか、そういうのを考えていったら授業がいっぱいいっぱいになってしまって、最近は授業を楽しめる、楽しめてるなっていう気持ちが少なくなってきたので、私の気持ちのところに、なつこさんの絵で「授業が癒やして」のを聞いて、本来したいのはこれやったんやなっていうのをもう1回思うことができたので、お気に入りの絵で選ばせてもらいました。

グループディスカッション：お気に入りの絵 かなえ

- 授業の癒やしってというのが同じくポイントで、私も、ああ確かに授業以外の業務をしているときって本当に頭が痛いというか、そういうことが多いんですけど、授業が入っているときは学生に癒やされるという気持ちすごい共感できるなと思いました。

グループディスカッション：お気に入りの絵 メイメイ

- 私も同じくお花がいいなとかって思っていて、最初は学生がお花だと思っていなかったんですけども、説明を聞いていてですね、やっぱり他の業務で大変だなと思っていて、授業で癒やされるのがさすがだなと思うんですね、私も、授業のときはできるだけ楽しく授業していきたいと思うんですけども、できるだけ学生を楽しませるのが自分の仕事だと思っていて、でも自分も癒やされるとかかっていうまではまだ考えることができなくて、やっぱり自分の知識とかもまだそこそこまでないので、授業前はまだ3年目なんですけども、今ちょっと緊張感もまだあってですね、でも授業入って癒やされるとかまではなっていないので、すごいいいなと思いました。

考察とまとめ

- ビジュアル・ナラティブ：経験の（再）組織化と語りの共同性
 - ・ 業務vs授業を浮き彫りにした「癒やし」
 - ・ 共同的な語り：「学習者とわたしの関係性」＝癒やし
- 日本語教師研修：
 - ・ 日本語教師のキャリア観（職業観）が見えてくる可能性
 - ・ 「横」のつながりを結ぶ可能性

キャリアに着目した研究から 養成課程と教育現場との乖離について考える

1. 大学での養成課程と教育現場との乖離はあるのか。

なつこのキャリア観

2. どんな乖離があるのか。なぜ、乖離が生じているのか。

具体的なキャリア観形成の欠如

3. 乖離を軽減するために何ができるか。

キャリア教育の導入

ワークショップ 教師教育における ライフキャリアの視点 日本語教員養成へのエッセンス

「キャリア教育」と聞くと、どうしても就職活動や職業選択に結びつけて考えられがちです。しかしキャリア教育は、進路指導や職業教育とイコールではなく、「私と他者・社会との関わり方を、人生の流れの中でどう考えるか」を問うための姿勢を涵養する営みです。

とりわけ日本語教育においては、異文化と出会い、地理的にも心理的にも越境していくプロセスが、キャリア発達にとって重要な意味を持つのではないのでしょうか。あるいは他にも、重要なエッセンスがあるのでしょうか？

本ワークショップでは、「日本語教員養成におけるキャリア教育のエッセンスとは何か」「そのエッセンスを実際の授業にどう落とし込むか」という二つの問いを軸に、参加者それぞれの視点から、日本語教師養成課程の中でのキャリア教育の実際を考えていきたいと思います。

日時

**2025年10月12日(日)
13～16時**

場所

立命館大学いばらきキャンパスB棟5階
(515&516室)

ご参加に際して

ご参加の方は、ご自身の担当授業(過去のものでも可)のシラバスや授業資料などを1つ選び、印刷してお持ちください。その資料をもとに、他の参加者とともに「キャリア教育」の視点からの改良案を考えましょう。なお、上述のように、キャリア教育は、あらゆる授業に通底する姿勢を育むものであるため、選択する授業はどのような科目でも構いません。

参加無料

対象

大学の日本語教師養成
課程を担当している教員
【専任、非常勤問わず】

定員

30名

主催

土元哲平 (立命館大学)

嶋津百代 (関西大学)

中谷潤子 (大阪産業大学)

問合せ:

nakatani@int.osaka-sandai.ac.jp

科学研究費(基盤研究B)「理論と実践の往還を通じた越境的学びによる日本語教師養成プログラムの開発と検証」(研究代表者:北出慶子 課題番号23K21943)の助成により実施します。

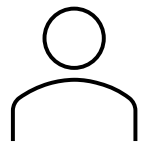
申込: 9月30日まで

<https://forms.gle/BxdJCGrpmZTRLLoW7>



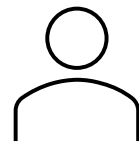
本報告の趣旨

1. 大学での養成課程と教育現場との乖離はあるのか。
2. どんな乖離があるのか。なぜ、乖離が生じているのか。
3. 乖離を軽減するために何ができるか。



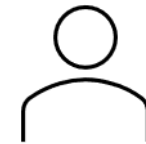
①北出

大学での日本語教師養成担当教員と受講生への調査結果から



②嶋津

養成課程修了生への調査から



③杉本

実習担当の日本語学校への調査、実習生への調査、「連携のための日本語教育実習研究会」実践から

2. どのような乖離があるのか。 なぜ、乖離が生じているのか。

教育実習からの視点

2.1 実習を受け入れる日本語学校への調査から

2.2 日本語教育実習経験者への調査から

大学の日本語教師養成課程の実習を受け入れる 日本語学校を対象とした質問紙調査 概要

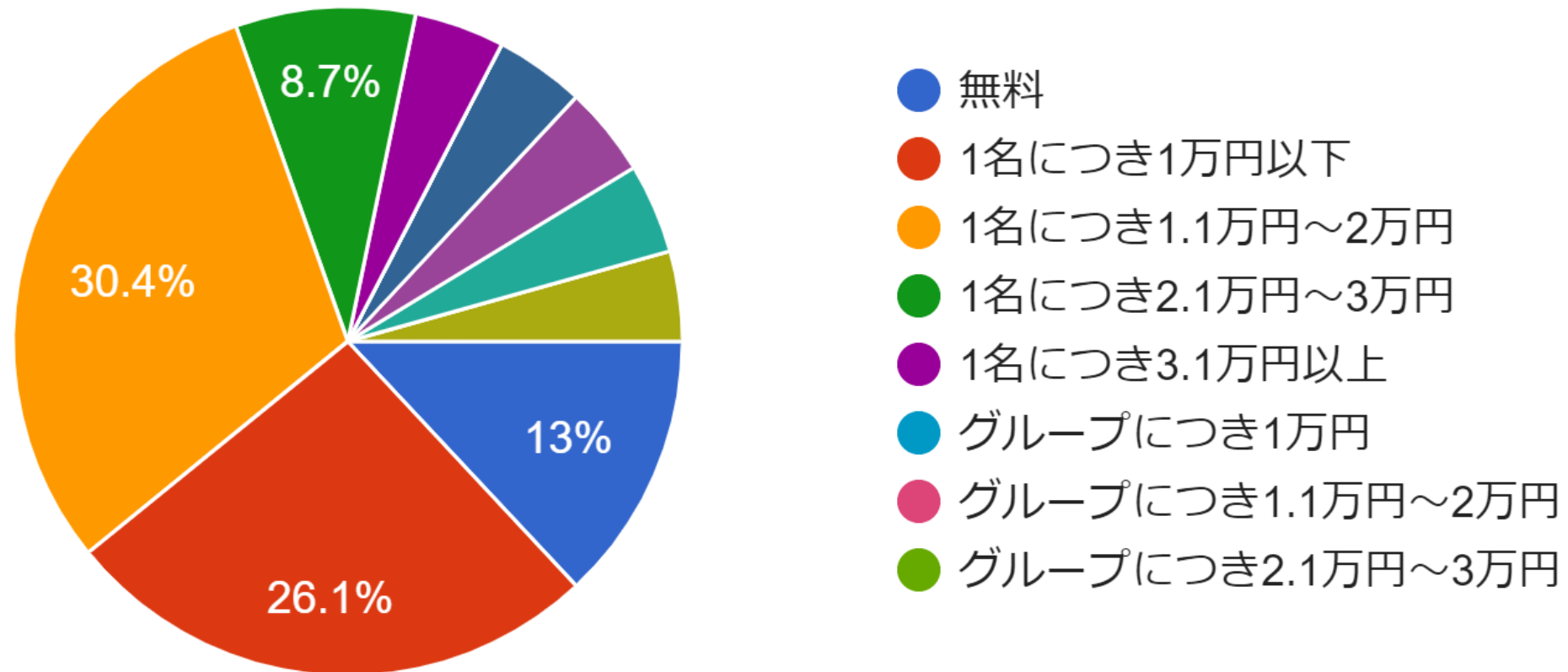
1. **目的**: 日本語学校における、大学の日本語教師養成課程の実習受入れに関する現状と課題を探り、改善策を見出し、よりよい連携の形を模索する
2. **期間**: 2022年 10月5日(水)～2022年 10月31日(月)
3. **形式**: オンラインによる質問紙調査(匿名) google forms
4. **構成**: 教壇実習を受け入れているかどうかで質問数・内容が異なる(最大 選択式22問、記述式9問)
5. **対象・回答者**: 日本語学校の主任や校長など、計45名(45校)(うち教壇実習受け入れあり:23校)
6. **分析方法**: 記述式回答分は、帰納的コーディング(佐藤, 2008)

謝礼額から見える課題

(10)

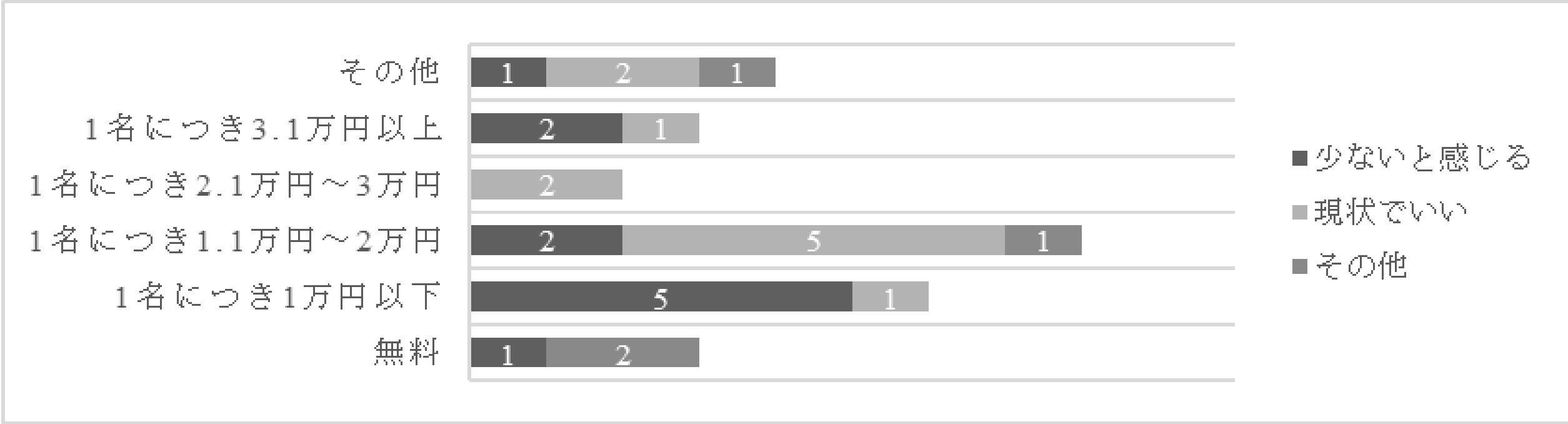
教育実習（教壇実習を含んだ全体）を受け入れる際に、受け取る謝礼額についてお答えください。

23 件の回答



謝礼額から見える課題

大学から受け取る実習謝礼額とそれに対する評価



謝礼額に関する自由記述

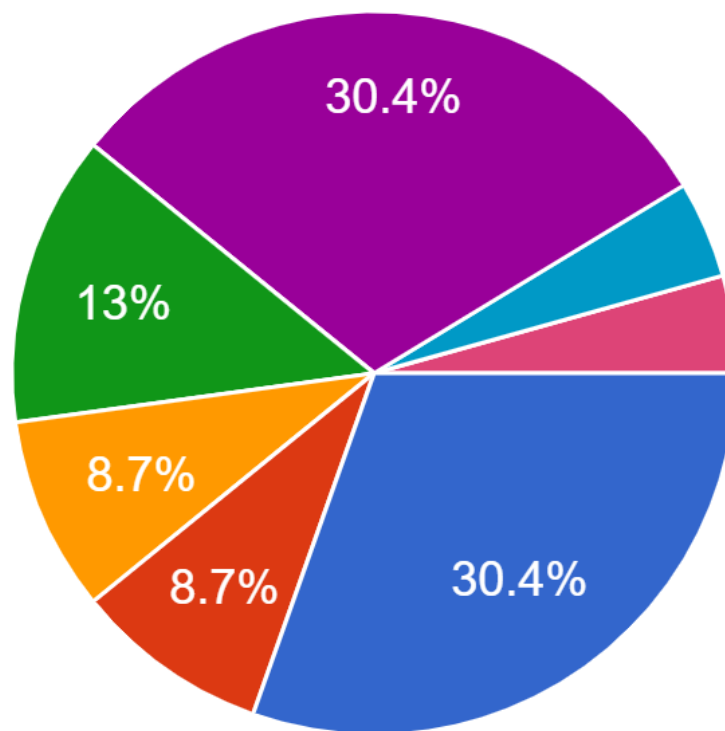
「時間と労力がかかる」「時間と労力の割に謝礼額が少ない」「人件費がかかる」
⇒負担の大きさと謝礼額のギャップ

(西村・杉本・塩田・山本, 2024)

教壇実習の到達目標から見える課題

(13) 教壇実習での実習生の到達目標をどのように決めていますか。

23 件の回答



- 大学側で設定する
- 日本語学側で設定する
- 大学と日本語学校が相談して設定する
- 日本語学校の指導教員と実習生が相談して設定する
- 特に設定していない
- 通常授業程度の教壇実習を期待し、大学生には精一杯頑張ってもらう。
- 大学側からは、全てお任せすると言われています。目標がないのは無責任な感...

設問) 到達目標の決め方や内容についての課題(自由記述)

「具体的な到達目標設定を共有できていない」

「『丸投げ』だと感じる」

「学生能力や準備が不明で到達目標を設定できない」

⇒ 大学側が設定した目標が受け入れ先に明確に伝わっていない

設問) 到達目標を達成するために、大学ではどこまでの学習や準備をしてきてほしいと考えるか(自由記述)

「教案作成」「模擬授業」「教材・教える項目の理解」

「送り出す前に」大学の先生がオリエンテーションの内容を理解 しておいていただきたい

(別の設問への回答「実習生は大学で教案作成をしたことがない」)

⇒ 大学で十分な指導をしないまま送り出す場合も？

日本語教育実習経験者への調査 概要

1. **目的**: 日本語教育現場である実習先の日本語学校と大学での学びとの間にはどのようなギャップが存在するのかを明らかにすることで、よりよい日本語教育実習のための双方の連携の方法を見出すこと
2. **時期**: 2024年3月
3. **形式**: フォーカス・グループ
4. **対象者**: 日本語教育実習経験者 13名(4組)
5. **分析方法**: 文字化したものを帰納的コーディング(佐藤, 2008)

(杉本・西村・塩田・山本・北出, 2025)

質問項目

- 実習前にはどんなことを学びたい、どんなことを経験したいと思って実習に参加したか
- 日本語学校での実習で、良かったことは何か
- 日本語学校での実習で、大変だったこと、困ったことは何か
- 実習では、どんな学びがあったか
- 大学での指導で役に立ったことはどんなことか（大学で学んだことと実習先での経験がどのくらいつながっていたか）
- 大学の指導教員と日本語学校の指導教員とで指導内容が違うことはあったか
- どのように評価されたか。その評価方法や項目・基準について、事前に説明があり、理解していたか。評価に納得したか
- 実習で経験できればよかったと思うことはあるか
- 実習が終わってから、実習前に学んでおくべきだった、指導しておいてほしかったと思ったことは何か
- 実習での経験をどのようにその後生かせたか、今後生かせそうか

1) 送り出し側と受け入れ側の連携により解消すべきギャップ

◎実習形態は実習先により実に**多様**

⇒ 選択肢がない場合は、実習生の予想や期待から外れる場合も

<多様な実習形態の例>

- ・見学と教壇実習のみ／一定期間滞在し様々な業務も体験
- ・実習生用の部屋に入って作業／教員室の空き机で作業
- ・実際の授業に入って教壇実習授業／実習用に作られたクラスで授業
- ・実習生が作成した教案で授業／学校が準備したモデル教案で授業

⇒・実習が始まる前／オリエンテーション時に実習生にどのような実習形態であるか前もって説明する必要がある。

- ・実習受け入れ先の日本語学校に、実習生の希望を伝えどのような実習が可能であるか話し合い、すり合わせる。

1) 送り出し側と受け入れ側の連携により解消すべきギャップ

◎大学での学びがそのまま教壇実習に応用できるわけではなく、実習生の戸惑いの要因に

<様々な要因の例>

- ・実習先の指導方法やルールが実習先に行くまでわからない
- ・大学で学ぶ知識は役立つが、実践的な知識や技術を学ぶことは少ない
- ・大学の教授法等の模擬授業でメインに扱う教科書と実習先で使われている教科書が違う

⇒ すべての実習先に合わせて授業を行うのは難しいが、大学教員が実習先で使われている教材や指導法を知り、実習までの授業に少しでも取り入れることは可能

2) 実習生自身が越えるべきギャップ

◎実習先の先生が忙しそうだったり、実習生という立場から希望を言い出せず、実習への不満足感につながる

- ⇒ 失礼にならないように気を付けながら自身の要望を伝える
ストラテジーや、自律的に実習に向き合う姿勢を見せることも重要
- ⇒ 大学ではケース学習を通じ、様々な場面を想定して、実習前に話し合うことで、心の準備をすることができる

◎大学で学んだことと実習先で指導方法が違ったり、同じ受け入れ先でも教員によってフィードバックに差がある

- ⇒ 実習生自身の教育観や価値観の問い直しにつながる可能性

3. 乖離を軽減するために何ができるか。

3.1 大学養成担当教員と日本語学校への調査から

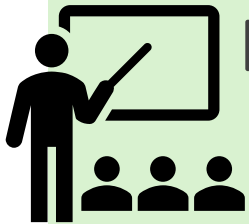
3.2 「連携のための日本語教育実習研究会」の実践から

連携において必要なこと



大学

実習先との情報共有
実習先との連絡
実習先の訪問
実習生からの情報共有
大学側での実習生指導
実習先にとってのメリット
教員の個人的なつながり
自ら実習の場の確保



オープンコード：44
焦点化コード：8

日本語学校

互いの現場を理解すること
情報共有・意見交換
目標の共有
学生同士の交流の機会の設定
互恵的關係
相互尊重
人材や情報の往来
大学生が現場を知る機会



オープンコード：46
焦点化コード：8

「日本語教育の参照枠」どう取り入れてる？

本音で意見交換会！

連携のための 日本語教育実習研究会

参加費
無料

日時

場所

第9回
大阪会場

2025年8月3日(日)
13:30-16:00

大阪大谷大学
ハルカスキャンパス
あべのハルカス23F
天王寺駅から徒歩すぐ

第10回
東京会場

2025年9月27日(土)
13:30-16:00

清泉女子大学
五反田駅・大崎駅・高輪台駅から
徒歩10分、品川駅から徒歩15分

オンライン参加可能

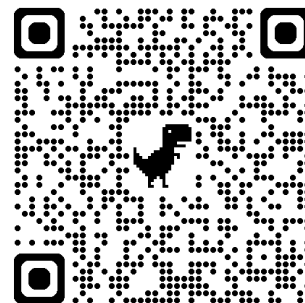
対面参加定員 30名

趣旨：

日本語学校と大学の
実習におけるより良い
連携を目指して、それ
ぞれの立場で求めている
ものや課題の共有を
行い、何をどう解決す
べきかを、本音で話し、
ともに考える場をつくる

<https://forms.gle/yyftDQcz6BjjjHW7>

お申し込みは
←こちらから→



2023年度の活動

	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	2023年7月29日 10：00～12：30	2023年9月17日 10：00～12：30	2024年3月10日 13：30～16：00	2024年3月23日 13：30～16：00
場所	カイ日本語スクール +オンライン	大阪大谷大学 +オンライン	大阪大谷大学 ハルカスキャンパス	清泉女子大学
テーマ	実践事例 新宿日本語学校 × 清泉女子大学	実践事例 ハウディ日本語学校 × 大阪大谷大学	日本語教育実習経験者 の話を聞く	日本語教育実習経験者 の話を聞く
意見 交換	①教壇実習の到達目標と 評価 ②教壇実習のための準備 ③謝礼額（実習費） ④連携する上での課題 （モヤっとする点）	①国家資格の要件と しての教育実習のあり方 ②日本語学校と大学の 互惠性	何が課題か、どのよう にすればより良い実習 になるのか	何が課題か、どのよう にすればより良い実習 になるのか
参加 者数	対面9名 オンライン51名 計60名	対面26名 オンライン45名 計71名	29名	18名

2024年度の活動

	第5回：評価編 プログラム開発チーム	第6回：地域編 市民性チーム	第7回：キャリア編 キャリアチーム
日時	2024年8月17日 13:30～16:00	2025年2月25日 19:00～21:30	2025年3月27日 17:00～19:00
場所	キャンパスプラザ京都 +オンライン	オンライン	大阪産業大学 梅田キャンパス
テーマ	日本語教育実習の 教壇実習を評価する ルーブリックを作ろう	日本語教師養成の科目で 地域とどのように 連携していく？	日本語教員への道： 大学と日本語学校の連携で 考えるキャリア教育
ゲスト		金田智子氏、渡辺陽子氏 新矢麻紀子氏、棚田洋平氏	家島明彦氏
参加者 数	対面16名 オンライン12名 計28名	52名 (うち後半ディスカッション 参加者18名)	23名

2025年度の活動

	第8回：特別編	第9回	第10回
日時	2025年7月19日 10:00～12:00	2025年8月3日 13:30～16:00	2025年9月27日 13:30～16:00
場所	オンライン	大阪大谷大学 ハルカスキャンパス	清泉女子大学
テーマ	実習場面のケース教材を使って さまざまな立場から考えてみよう	実践事例 南大阪国際語学学校 × 大阪産業大学	実践事例 JET日本語学校 × 桜美林大学
意見交換		「日本語教育の参照枠」をどのよう に取り入れているか、取り入れる べきか	「日本語教育の参照枠」をどのよう に取り入れているか、取り入れる べきか
参加者数	21名	対面16名 オンライン15名 計31名	

事後アンケートより（研究会に対する評価 ChatGPTによるまとめ）

◎第1回・第2回（実践事例紹介）

- ・具体的な受け入れ状況や事例紹介が参考になり、他機関の取り組みや事情を知ることで、自校の実習や連携を考える手がかりになった。
- ・送り出し側・受け入れ側の考えや課題を共有でき、有意義だった。
- ・本音で話せる場が貴重で、ネットワーク形成や交流の機会として評価された。

◎第3回・第4回（教育実習経験者の話を聞く）

- ・実習経験者のリアルな声を直接聞け、多様な立場から意見交換できた点が特に高く評価された。
- ・現場と大学双方の課題や方向性が明確になり、今後の教育に活かせる学びが得られた。

事後アンケートより（研究会に対する評価 ChatGPTによるまとめ）

◎第5回（評価用ルーブリック作成）

- ・実習の評価観点や基準について、多様な立場の先生方の経験や意見から学びを深め、新たな視点を得ることができた。
- ・送り出し側・受け入れ側、大学・日本語学校といった普段つながりの少ない関係者と交流し、暗黙知の言語化や課題の共有が進んだ。

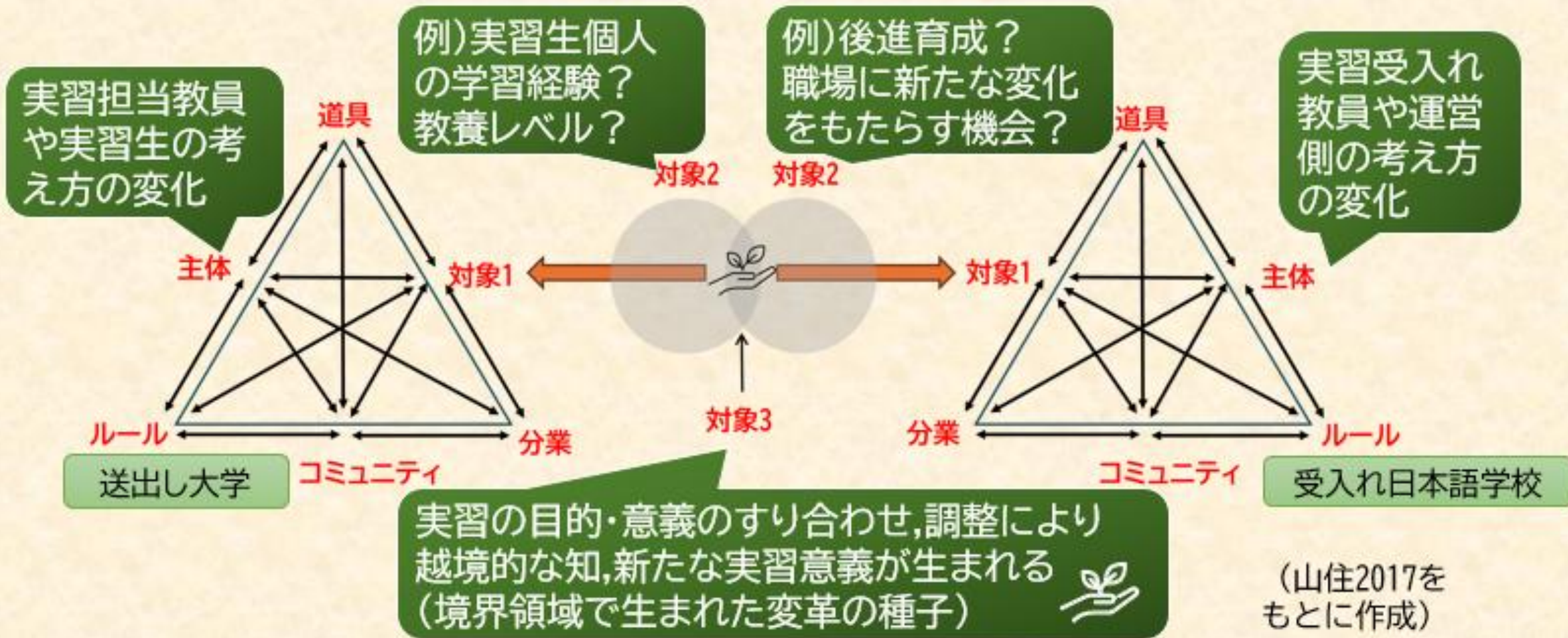
◎第6回（地域日本語教室との連携）

- ・地域と大学の具体的な連携事例を通じて、現場の実態や課題を知り、自身の実践や地域での取り組みに生かせるヒントを得られた。

◎第7回（キャリア教育）

- ・キャリア教育の意義や具体的な方法を学び、本来の意味を捉え直すとともに日本語教育とのつながりを考える貴重な機会となった。

★活動理論からノットワーキング, 拡張的学習へ＝私たちが目指すこと



引用文献

- ・ 香川秀太・青山征彦（編）（2015）『越境する対話と学び：異質な人・組織・コミュニティをつなぐ』新曜社.
- ・ 北出慶子・塩田朝子・山本弘子・杉本香・西村美保（2025）「教育実習に關与する日本語学校と大学の日本語教員養成課程による越境的対話から何が生まれたかー参加した実習担当教員の変化とエージェンシーに着目して」言語文化教育研究学会第11回年次大会予稿集, 180-181.
- ・ 北出慶子・澤邊裕子・嶋津百代・杉本香（2024）「大学での日本語教員養成課程は、何をを目指すのかー養成担当教員への調査から見えた課題と展望」『日本語教育』187, 212-226.
- ・ 北出慶子（2021）「大学生が見据えるライフコース・キャリアにおける日本語教師という職業ー日本語教育課程の学生が新卒で日本語教師の道に進まないことを決めるまでのプロセス」『2021年度日本語教育学会春季大会予稿集』, 132-137
- ・ コルトハーヘン（編著）（2012）武田信子監訳『教師教育学ー理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社.
- ・ 佐藤綾・片野洋平・高木裕子（2022）「日本語教師のキャリア形成とその形成過程に影響する要因の分析」『国際教育交流研究』6, 13-28.
- ・ 佐藤 郁哉（2008）『質的データ分析法ー原理・方法・実践ー』新曜社
- ・ 佐藤学（2015）『専門家として教師を育てる：教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店.
- ・ 杉本香・西村美保・塩田朝子・山本弘子・北出慶子（2025）「日本語教育実習における日本語学校と大学との連携を考えるー実習経験者の語りに表れた学びのギャップからー」『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』22, 68-83.
- ・ 舘岡洋子（2023）「キャリアとしての日本語教師ー多様な働き方におけるキャリア自律の必要性ー」『早稲田日本語教育学』34, 59-70.
- ・ 西村美保・杉本香・塩田朝子・山本弘子（2024）「日本語学校における大学日本語教員養成課程の実習受け入れの現状と課題ー連携のために何が必要かー」『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』21, 37-56.
- ・ 山住勝広（2017）『拡張する学校ー協働学習の活動理論』東京大学出版会
- ・ やまだようこ（2017）「ビジュアル・ナラティヴー時間概念を問う」『こころの科学とエピステモロジー』0 (1), 9-15.
- ・ やまだようこ編（2018）『N:ナラティヴとケア第9号』「ビジュアル・ナラティヴ:視覚イメージで語る」遠見書房.
- ・ やまだようこ（2021）『ナラティヴ研究ー語りの共同生成』新曜社.
- ・ Darwin, R., & Norton, B. (2015) "Identity and a Model of Investment in Applied Linguistics" Annual Review of Applied Linguistics, 35, 36-56.
- ・ Hargreaves, A., & Fullan, M. (2015) *Professional capital: Transforming teaching in every school*. Teachers College Press. 和訳:木村ほか（2022）『専門職としての教師の資本: 21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』金子書房.

ご清聴ありがとうございます。



謝辞とお願い

1. 本企画で報告した調査は、JP科学研究助成費（基盤B）22H00671の助成を受けており、発表者の他にも複数のメンバーによる研究成果です。
本科研HP <https://www.jlte.jp/index.html>
2. 本企画で報告した調査にご協力くださった皆さまに、この場を借りて改めて心よりお礼申し上げます。
3. 受講開始時&受講修了時の学生対象オンライン質問紙調査にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。連絡先：kitade@lt.ritsumei.ac.jp